

瀬谷の四福神と

六道の辻～

和泉川の流れ

コース

5.5 Km 約 8800 歩

世野原の鷹見塚→宝蔵寺→西福寺→宗川寺→全通院勢至堂→六道の辻
→山王稲荷→宮沢神明社～和泉川～宮沢バス停留所

旭ガイドボランティアの会

5 宝蔵寺 (併財天)
住所: 横浜市瀬谷区瀬谷5-36-14

平安時代末期に建てられた不動堂をはじめとするお寺です。歴代徳川将軍の位牌があるほか、徳川3代将軍・家光により御朱印を賜わり、拝領した轡なども現存。境内には石造の弁天様のほか、干支のお守りご本尊なども祀られています。

6 西福寺 (布袋尊)
住所: 横浜市瀬谷区瀬戸3-21-2

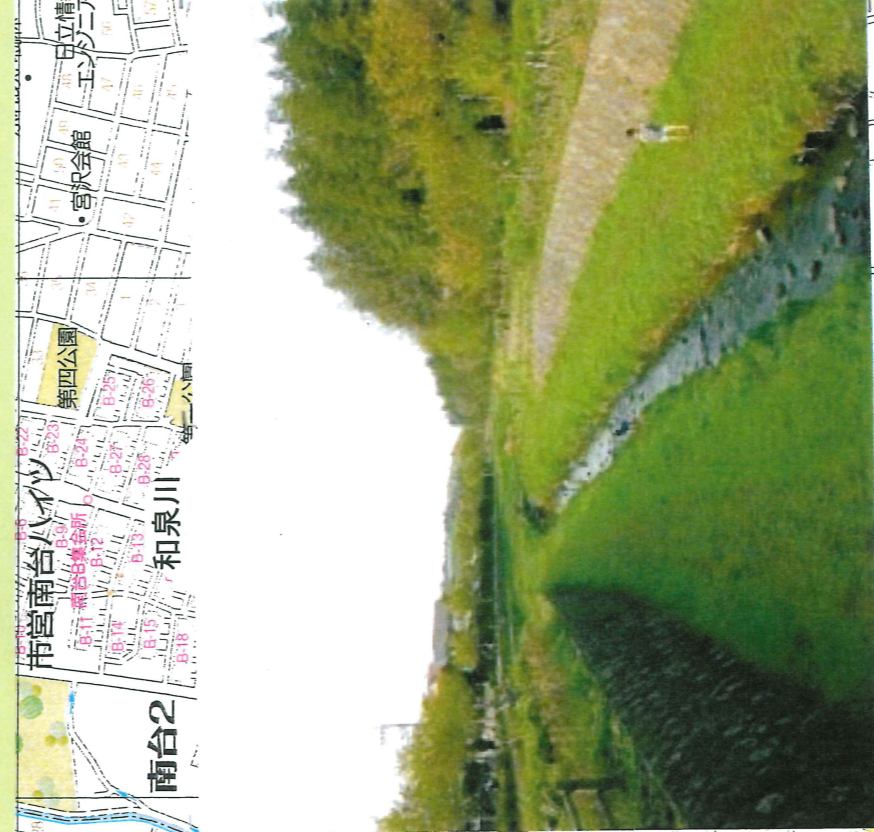
かつては、極楽浄土があるとされる西を正面として、境内の地形が扇状に広がっていたことから、西福寺と名付けられました。境内の椎の木は樹齢千年とされています。布袋様を祀ったお堂と布袋様の石像があります。室町時代の創建。

7 宗川寺 (稲倉合衆山)
住所: 横浜市瀬谷区北都26-13

江戸時代、日質上人が駿河から江戸に布教の旅の途中に、この地の住人だった石川宗川の篤い信仰心を感じ入ったことから開山されたといわれるお寺です。山門脇の2本のイチヨウは夫婦銀杏とされ、古くから安産育児の信仰を集めてきました。

8 全通院勢至堂 (尊老人)
住所: 横浜市瀬谷区下瀬谷1-29-10

徳善寺の別院で勢至菩薩をご本尊としています。この勢至様は夢のお告げによって発願されたもので、徳善寺に安置された後、この勢至堂に移されました。江戸時代に建てられた本堂や尊老人が祀られたお堂、子育て地蔵に参拝を。



・勧請の年代は不詳。元禄年間(1688～1703)当時の旗本石川四郎衛門の領有する上矢部の枝郷にあたるこの土地に、上矢部、岡津方面より盛んに移住が行われ、これとともに開拓、農耕、殖産の守護神である山王・稲荷の2神をこの地に勧請して祀り、五穀豊穡、家内安全を祈願して建立したとおもわれる。

六道の辻とは仏教で言う地獄、餓鬼、畜生、阿修羅、人間、天上への別れ道ということで、地藏尊がその道を示され、当時の農民はこの地に自分達の終生末代の安楽を求め願いました。

この6本の道の内1本は宮沢新田より藤沢道、1本は横浜弘明寺観音より座間星の谷観音への信仰の道として残り、今でも星の谷道と呼ばれています。

宮沢六道の辻

宮沢神明社

山王稲荷社

左・山王、右・稲荷

大和市
上和田

世野の原の鷹見塚

慶長年間(1596～1614)徳川幕府は旗本長田忠勝に上瀬谷をお鷹場支配として与え、この鷹見塚は相模国4郡の鷹狩指揮所の1つとして築かれました。

さらに弟の長田白政は中瀬谷をも支配下に入れ、世野の原に鷹狩の大絵巻が繰りひろげられたと云われています。

5代将軍綱吉の貞享4年(1687)に「生類あわれみの令」により鷹狩が禁止となりましたが、8代将軍吉宗の享保元年(1716)に復活し、幕末まで続きました。

賢蔵寺

寺社の概要

山号	瀬谷山賢蔵寺	瀬谷 5-36-14
宗派	古義真言宗	藤沢感応院末
創建	治暦2年(1066)	開基・秀恵比丘尼
本尊	不動明王	2童子付
本堂	天保15年(1844)の建造と云われる	

境内社、石造物

- 境内社　八福神の弁財天、富士見観音（ボケ封じ）、天満宮
- 慶長6年(1601)没した旗本後藤佐渡守の33年忌供養塔、寛永12年(1635)建立
- 五輪塔　寛永20年(1643)癸未建立、六地藏、その他板碑あり

その他

- 初代住職は空元法印（14世）があたり開山したと伝聞されているが、このあとの歴代の住職については寛文年間(1660～72)の火災により記録はなし。またこの火災により、本堂を現在地へ移した。墓地は寺の西方向で門前の道を北に約150米位入ったところの台地にある。墓地の道に面したところには古い石塔類が散見される。寺の文書にも「年暦遺所不評、元禄9年丙子天」とある。

- 徳川家光の朱印状（8石3斗）あり。寺領　1町2反9畝、場内　6反、朱印状の書き換えのときに駕籠で中原往還を通り、江戸との間を往復したといわれている。駕籠は寺内に保存されているが公開はされていない。

西福寺

寺社の概要

山号	猿王山西福寺	橋戸 3-21-2
宗派	真言宗豊山派	奈良長谷寺末
創建	天文3年(1534)頃	開基不詳
本尊	不動明王	
本堂	昭和4年(1929)	

再建)寛永17年(1640)江戸時代　慶円和尚没（寺伝で初見の住職）

延宝　9年(1681)江戸時代　円仲和尚没（寺の再建に尽くした）

天和　2年(1682)　　長栄和尚没（寶蔵寺住職、再建の協力者）

長栄和尚が没された時に、西福寺の再建に貢献されたということで、当寺一代の名譽号を刻んだ大位牌をこらえて当寺に安置している

天和3年(1683)山号、院号、寺号が許可され、再建、再発足した

境内社、石造物、市の名木古木

- 境内社　八福神の布袋尊、日吉社、山王社
- 六地藏　宝永7年(1710)造立（後列）、前は最近の造立
- 宝篋印塔　明和7年(1770)
- 筆供養　「ものを大切に」の趣旨で毎年11月3日に筆供養が行われる
- 仏足跡
- 茶筌塚　春と秋にお茶会も開かれている
- スダジイ　樹齢約600年

左馬社

左馬社と梵鐘

その昔、境川流域の村々では、疫病が流行すると境川の東西に点在する神社を回り、厄除けをする民族信仰が盛んでした。（七サバ参り）

当左馬社は「七サバ神社」と呼ばれる内の1社であり、祭神は左馬頭源義朝です。

隣接の真言宗西福寺が、この左馬社の別当職であったので、当時の神仏混淆の姿が今日に残り、神社の境内にある吊鐘は区内唯一のもので、厄除け、虫除けに鐘を突いて祈願したとのこと です。

梵鐘は江戸時代の文久元年(1861)に鑄造されましたが、太平洋戦争の際供出したため、昭和32年(1957)氏子の協力によって、新たに現在の鐘がつくられました。

寺社の概要

社名	左馬社	橋戸 3-20-1
祭神	左馬頭・源義朝	
創建	不詳	
本殿	権現造り	昭和49年(1974)
梵鐘	昭和32年(1957)に氏子の協力により寄進	
鳥居	神明鳥居	大正7年(1918)
境内社、石造物		

- 境内社　豊受大神宮、稲荷社、天満宮、古峯神社

- 瀬谷左馬社・沿革」によると、当社が現在地に移ったのは鎌倉時代のことといわれる。それまで境川に近くでしたが、古宮が水害を受けやすい位置のため現在地に遷宮された。また移る前は「鯖」と称していたが、「左馬」と名を替え、鎌倉期に義朝を祭神としてからは隆盛に向かったという。

- 神社に梵鐘は神仏混合の名残で、以前は西福寺がこの神社を管理する別当寺。文久元年(1861)鑄造の梵鐘は太平洋戦争中に供出、昭和32年(1957)に再建。昔から子供好きの神として広く伝えられ、神社内で子供のいたずらを叱った者は神罰が当たると云われていた。

- 市の認定の橋戸囃子保存会があり、祭礼の夜に、笛や太鼓の音に合わせたコミカルなオオカメとヒョットコの舞を見ることが出来る。また正月には、獅子舞が氏子区域を練り歩く。

- 七サバ参りとは、疫病が流行すると境川の東西に点在するサバ神社を回り、厄除けをする民族信仰が盛んであった。

- 左馬の呼び名の由来は多くの説があるが、祭神の左馬頭源義朝の官位をもって呼ぶ名とされたと云われる。七サバ神社とは次の通り。

左馬社	瀬谷区橋戸 3－20－1（橋戸）
*　佐婆神社	泉　区和泉町 481（神田）
左馬神社	大和市上和田 1168（久田）
飯田神社	泉　区上飯田町 2519（新田）
鯖　神社	泉　区下飯田町 1389（宮の脇）
*　左馬神社	泉　区和泉町 3257（中の宮）
*　鯖　神社	”　　　717（鍋屋）（*印は「満仲」が祭神）

宗川寺

宗川寺と瀬谷問屋場跡（旧）

宗川寺は寛永2年(1625)富士重須本門寺第12世日賢上人開山、開基は石川宗川である。山門を入ると左右の夫婦銀杏は昔から縁結び、安産祈願の信仰をうけ、近郷より多くの参詣があり、いまは横浜市の名木と指定された大樹である。

中原街道瀬谷問屋場跡は天正6年(1578)小田原北条氏の関東経営の駅路として、中原街道瀬谷に問屋場が設けられ、のち徳川家康の江戸開府により駿河国山宮西谷の住人、石川弥次右衛門重久が問屋場の運営を幕府より託され、江戸～平塚間5駅の中宿、瀬谷の名をとり問屋場として江戸時代270年にわたって、中原往還の道筋の人馬、諸貨物の運送、継立てにその役割を果たした。

これより東方約80m付近がその跡である。

寺社の概要

山号	白東山宗川寺	北新 26-13
宗派	日蓮宗	富士宮市北本門寺末
創建	寛永2(1625)	開基・石川宗川日信
本尊	大曼荼羅	
本堂	昭和33年(1958)	
山門	四脚門	樺作りで昭和49年(1974)10月23日建立
鐘楼	鐘と鐘楼は昭和48年(1973)3月28日に日蓮上人700年遠忌と、宗川寺創建350年記念事業として奉賛建立落慶	

境内社、石造物、市の名木古木

- 境内社　八福神の福祿寿
- 二ツ橋学舎の教師「山名義実」の墓と顕彰碑がある
- イチヨウウ　樹齢約220年（夫婦銀杏）
- 本堂に向かつて右「雌樹」、左に「雄樹」、安産、育児を祈願する参詣者も多い。

全通院勢至堂

下瀬谷分教場跡と大藤

明治22年(1889)の市町村制の実施により瀬谷村、二ツ橋村、宮沢村が合併、1村となりました。この合併により瀬谷小学校の通学区域が広がったため、低学年児童の通学の便を考慮して、明治23年(1890)11月に分教場をこの全通院勢至堂境内に設けました。この分教場は昭和18年(1943)の学区改正により廃校になるまで、50年にわたり数多くの児童が通学しました。また、この境内には「横浜市の名木古木」に指定されているフジの大樹があり、その花の咲く頃は誠に見事なものです。全通院勢至堂は徳善寺別院として、勢至菩薩を本尊として祀っています。

寺社の概要

山号	全通院勢至堂	下瀬谷 1-29-10
宗派	曹洞宗	徳善寺の別院
創建	寛永年間（1624-43）	また延享元年(174x)とも云われる
本尊	勢至菩薩	開扉は12年に1度、午年の8月23日
本堂	寛政9年(1797)に建立か、	詳細不明
境内社、石造物、市の名木古木		
・境内社　八福神の寿老人		
・子育て地藏尊		
・フジ　樹齢約220年		

宮沢六道の辻

江戸時代の承応元年(1652)に行われた検地に先立ち、旗本・石川六左衛門重勝が領地内の米の取高の不足を補うために、支配下の上矢部村の村民数人をここに入植させ、開墾をしたと推測されています。

- 石造物
 - 地蔵（坐像）、正徳5年2月(1715)建立。道標をかねた三界万霊塔には、「相州宮沢村中　施主□□□奉造立地蔵菩薩」とある
- その他

・平成6年(1994)9月に、宮沢近隣の人々の信仰心から地蔵菩薩の回りを整備改修し、記念碑を建立した。

・六道の辻の道は、ほぼ同じ幅で、放射状に6方向へ延びている。昔、村人が夜遅くにこの辻を通る時、道の数が多いので迷い、狐に化かされたという人がよくあった。また、「ある武将が、狩の陣を張り家来を六手にわけ、狩をさせ獲物の数を競わせた」ともいう。

・源頼朝が西国33ヶ所にならい関東の霊場札所を定めたのが、坂東33ヶ所である。以来約800年、観音霊場を遍路する人々は、西に行っては第8番座間星の谷観音へ、東に行っては第14番弘明寺観音へと巡拝したと考えられる。

観音信仰の星の谷道（戸塚道）と藤沢道が中心となっているのがこの辻と云われる。

山王稻荷社

	
神社の概要	
社名	山王稻荷社
祭神	大己貴大神（大国主命）および　宇迦之御魂大神（御饌津神）
	左・山王、右・稻荷
市の名木古木	
・アカガシ	樹齢約150年
その他	

・勧請の年代は不詳。元禄年間(1688～1703)当時の旗本石川四郎衛門の領有する上矢部の枝郷にあたるこの土地に、上矢部、岡津方面より盛んに移住が行われ、これとともに開拓、農耕、殖産の守護神である山王・稻荷の2神をこの地に勧請して祀り、五穀豊穡、家内安全を祈願して建立したとおもわれる。

・氏子中の習慣として、正月の飾りに竹を使わない。これは竹を使用すると火難に遭う、との云い伝えによるものである。

・昭和初期の頃までは、「湯花神楽」という神事が行われていたと伝えられている。が今はみることが出来ない。「湯花神楽」は阿久和の熊野神社では行われている。

宮沢遊水地

和泉川改修に伴う「ふるさとの川整備事業」は、平成3年度に建設省（現国土交通省）の認定を受けて着手した。

改修工事は治水機能の充実と多自然型の水辺空間の形成を目的として、二ツ橋の水辺、東山の水辺、関ヶ原の水辺と工事が進み、寺の脇の水辺と宮沢遊水地を最終工区として平成18年3月11日に完成を見たものである。

遊水地の必要性

近年都市化の波で、雨水が地下に浸透しにくくなり、河川壁のコンクリート化や大幅な気候変動（集中豪雨など）の影響が加速、河川氾濫の危険ははなはだしく増大している。瀬谷区内を流れる河川についても、境川は俣野と下飯田に大規模な遊水地が完成、相沢川、阿久和川についてもすでに完成を見ている。和泉川についてもその必要性は前から指摘され、行政の手で最近完成を見たものである。

宮沢遊水地の規模

宮前橋付近から宮沢橋に至る延長約540m、幅約60m、貯水面積約24,000㎡、受け入れ可能水深は3m、貯水量は48,650㎡の規模である。この水辺空間には次のようなゾーンが設けられている。

山王橋・めがね橋ゾーン

遊水地の北寄りにこの地域がある。遊水地をまたいで2本の橋が架かり、和泉川に架かる分は近くに山王稻荷があることから山王橋と呼び、遊水地側はめがね状の橋が架かることからめがね橋と呼んで、遊水地のシンボルの存在になっている。川に面して越流堤があり道路側より約1m低くしてあるので、河川増水の際自然に水を遊水地側に導くようになっている。めがね橋の下には鏡池があつて、水面に鮮やかにめがねの影を落としている。隣接した橋詰広場は遊水地のエントランスであり、人々が集う場としてベンチやパーゴラ（日陰棚）が置かれている。鏡池側には飛び石や石の広場が造られている。

瀬谷貉窪公園

・変わった名前の公園である。南側の広場にはミツマタの広い植え込みと、東屋風の休み処があり、北側は泉が湧き出るうっそうとした谷間である。

・木立ちや湧き水を生かした公園で、森林浴には最適。四季それぞれの魅力があり、子ども向けの遊具を備えた広場もあり、子どもから大人までのびのびと過ごすことができる。

・瀬谷の民話に昔、阿久和村で夜になると家々の戸を叩く、いたずら貉がおり、村人に退治されてしまったと云う貉退治の話が残っている。

貉とはアナグマの異称で、混同してタヌキをムジナと呼ぶこともある。

赤関おとなり橋

・「ふるさとの川整備事業」による水辺の空間整備の一部として、平成元年(1989)にかけられた木橋で、この橋を通学路として利用する原小学校の生徒により名付けられた。アルミニウムや亜鉛合金など8種類の鳴り車が付いためづらしい橋である。

・長さ13m、幅約2.5mの木橋で、宮沢と阿久和の「お隣り」と「音鳴り」の意味を表し「おとなり橋」となった。

・橋を渡り、東方の貉窪公園に上がる小道を約100m位行くと、左側に石仏が見られる。この竹林一帯が東福寺跡といわれ、かつて橋戸の西福寺と相對していたと云われている。

宮沢神明社

神社の概要	
社名	宮沢神明社
宮	宮沢3－21
祭神	天照大神
創建	年代不詳
本殿	入母屋造り
神楽殿	間口4間（7.92m）、奥行き3間（5.94m）、明治4年(1871)の建造
鳥居	黒木鳥居
境内社、市の名木古木	
・境内社	三峰神社、白姫神社
・タブノキ	樹齢約350年
・ケヤキ	樹齢約350年
その他	

・創建年代は明らかではないが、承応元年(1652)に検地が行われていることから建立はその前後と思われる。荒地を開墾し宮沢部落を作った人々が勧請したのか、当時より諸人の崇敬を集め今日に至っている。

・地域の鎮守さまとして初詣、七五三、秋祭り（9月最終土曜日）が行われる。

・木々に囲まれた境内は静かで神社前の涌き水の跡は、以前は湧き水が和泉川に注ぎ、心和む雰囲気の名残を示している。

・神社正面の坂道は碓坂（いかりさか）という。

宮沢資料・**宮沢の開墾と湯花神楽**

江戸時代のはじめのことです。上矢部村に石川と名乗る武士がいました。あるとき3軒の家に対して新しい土地の開墾を命じました。そこは上矢部から北へ約10kほど離れた土地で、山には大杉が茂り、野には茅や、いばらが藪となり、人の近寄らない狐や狸や毒蛇などの住家でした。

その開墾は大変な仕事で、皆は朝は暗いうちに起きて木を伐り倒し、根を掘りおこし、夜は月や星の光をたよりに草を刈り取って一生懸命に働きました。

こうした作業の甲斐もあって、いつか田畑もふえ、やがて分家も10数軒になりました。

そこで人々はこの土地に農耕の神を祭り春には豊作を願う神楽を奉納することになりました。これが宮沢の山王稻荷社の湯花神楽です。開墾の当時にのんで氏子たちは山王さまの境内に、切った野芝を積み重ねてかまどをつくり大釜をのせてお湯を沸かしたりさせます。かまどの回りには東西南北を示すいみ竹を立て、しめ飾りを張りめぐらします。やがてあたりに湯気がもうもうと立ち込めるなか、神の使いとなった神主が天狗の面を付けてのっしのっしとあらわれます。

あかあかと燃える炎をうつつして沸きあがる湯気、響きわたる祝詞、人々は熱湯に浸した笹でお祓いを受けると神のもとえ引き寄せられる思いがしたそうです。いよいよ神主が四方から幸運の矢を放つころになると神事も最高潮に達し、熱湯の湯気をくぐり抜けて来るその矢を拾って、この年の幸運に恵まれようとむちゅになつたといふことです。この神事も今は見る事ができなくなりました。

民話と昔ばなし」